



長野地域振興局発

# 『みんなで木づかい』ゼロカーボン推進プロジェクトを開始します

ゼロカーボンに向けた取組のきっかけとして、長野合同庁舎に勤務する職員などに身近で使える県内木製品を紹介・斡旋し、併せて木製品を使うことの意義等をPRするプロジェクトを開始します。

長野地域振興局発

## みんなで木づかい

7月16日  
スタート

### ゼロカーボン推進プロジェクト



身近にある生活用品や事務用品などを木製品に替える取組を通じ、職員のゼロカーボンに向けた取組を促進するとともに、県産材の利用促進により地域の環境保全や産業振興に寄与します。

長野地域  
振興局  
林務課

身近で使える  
木製品を紹介

PR・斡旋

併せて木製品  
を使う意義などをPR

長野合同  
庁舎内の  
職員など

県内の  
木製品

第1弾(7月)は  
「木の箸やカップ類等」

第2弾以降も木の事務用品など  
県内の様々な木製品を定期的に  
紹介します

ゼロカーボン推進に向け、森林や木材の情報を  
シリーズで紹介します。

第1弾の内容は次ページ  
をご覧ください

ほとんどが外材で輸送コストもかかる弁当用の割り箸  
を“マイ箸”に替えて可燃ゴミも削減



信州版「新たな日常のすゝめ」

©長野県アルクマ



新型コロナウイルスの感染を防止するための行動を自ら考え実践しましょう

長野地域振興局 林務課 普及係  
(課長)三石和久 (係長)千村広道  
電話: 026-234-9523(直通)  
026-234-9504(代表) 内線2217  
FAX: 026-234-9526  
E-mail nagachi-rimmu@pref.nagano.lg.jp

## 【参考：斡旋にあわせた職員向け紹介情報(第一弾)】

### 身近にある生活用品などを木製品に替えることの意義

樹木は光合成により空気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収、酸素（O<sub>2</sub>）を放出して成長し、木を伐って木材として生活の中などで利用した場合は、木材の中に炭素（C：カーボン）を貯蔵し続けます。

例えば世界最古の木造建築物である法隆寺は1,300年に渡って炭素を貯蔵してきました。

森林を育てて木材として利用し、伐採した跡地に木を植えて育てるサイクルは、二酸化炭素の吸収源を増やし炭素を固定・貯蔵するという資源の循環利用であり、ゼロカーボンの推進に繋がるものです。



(図：2021年3月 林野庁「森林・林業・木材産業の現状と課題」から引用)

### 「割り箸」は環境に悪い？「木のマイ箸」は環境に良い？

割り箸は、柱や板などの建築用木材を加工する過程で発生する「端材」を有効活用して作られます。再生産可能な木材資源を無駄なく利用するという点で環境に優しい製品です。

ただし、国産割り箸の産地は奈良県や石川県などで、長野県の木材ではほとんど製造されておらず、国内で流通している割り箸の9割以上は低価格の海外（主に中国）産となっています。

運搬に要するエネルギー（CO<sub>2</sub>排出）や地域内の経済循環、また「使い捨て」といったことを考えれば、海外産や県外産の割り箸を使うよりも県内産の木製の箸を大事に使うことの方が環境に良いと考えられます。

今回紹介している木製の箸は、主に木曽地域などで伐採された木材の端材で製造されており、県産の木工芸品の販売促進にもつながることから、長野県の環境保全や産業振興に寄与するものです。

